

電炉・スクラップ・技術・環境・エンジ

Electric furnace Scrap Technology Environment Engineering

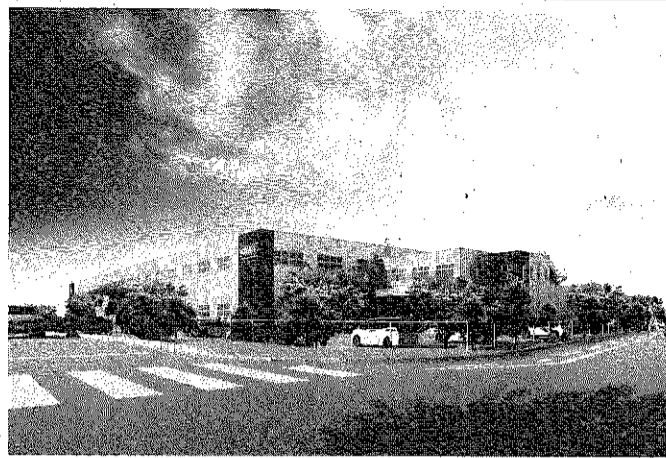
Mon

特殊鋼 ステンレス 鋳鍛鋼

近畿工業

三木に刃物新工場

二軸せん断式 生産能力1.5倍 破砕機用



完成予想図

破砕機・選別機メーカー大手の近畿工業（本社：神戸市、和田知樹社長）は、兵庫県三木市の三木工場公園内に新工場を建設する。同社が主力とする二軸せん断式破砕機用の刃物製作や使用済み刃物の再生事業を行う。総投資額は約16億円。今後さらに高度化・多様化する廃棄物処理・リサイクルニーズに対応し、高品質の刃物を安定供給することが狙い。

高付加価値製品も製造

新工場の「TOMO E FACTORY」（トモエ・ファクトリー）は敷地面積約9400平方メートル、建屋面積約5200平方メートルで、これまで二軸せん断式破砕機用の刃物を製作していたトモエプラント（兵庫県三木市）や本社工場（同）の二部工程を新工場に集約。今年3月に着工を開始し、来年4月からの稼働を目指す。

に無駄を省いた（和田社長）ことにより、生産効率が向上。刃物の生産能力をこれまでの約1.5倍に引き上げる。また最新鋭の製造設備を活用し、硬度が高く、破砕性能や耐久性に優れた高付加価値製品も製造する。

同社では新工場の建設などにより、主力の二軸破砕機の受注・生産体制を強化するほか、アフターメンテナンスなどサービス面の充実化も図り、「産業廃棄物関連のほか、鉄・非鉄金属スクラップ業界向けなどにも販売強化したい」という。

近畿工業は1948年に兵庫県加古川市で創業。二軸せん断式破砕機の国内トップメーカーで、発売開始から30年で2000台以上の販売実績を持つ。15年に業界初となる工業系雑品処理に特化した

「スーパーシュレッタ」や、17年には自動車電装用モーター（ワイパーモーターやパワーステアリングモーターなど）、小型工業用雑品、小型家電、家電4品目、不燃粗大ごみなど幅広い品目を処理対象物とした「VIBU」

業を開始する。役員体制、組織および部門別連絡先は次の通り。

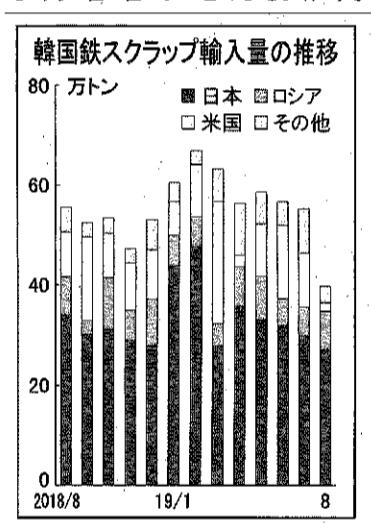
【役員体制】
 △代表取締役社長 山崎晃生
 △取締役副社長 中村紀之
 △取締役営業1部長 石井勇
 △取締役営業2部長 谷津雄二
 △取締役技術営業部長 金山裕介
 △取締役（非常勤） 藤田倫之
 △取締役（非常勤） 石井康宏
 △監査役（非常勤） 西仲桂
 △監査役（非常勤） 原田浩行
 【組織および部門別連絡先】
 △営業1部（主な業務）竹節鉄筋・鋼片の販売代行 営業1課
 電話03-6267-0030（代表）、FAX同6267-0003
 △営業2部（主な業務）ねじ鉄筋、継手、

使用済み自動車引取24万台に減
 JARC8月
 自動車リサイクル促進センター（TE）のまごめによ
 019年8月
 み自動車引取
 年同月比5

スクラップ入 韓国、8月40万トン割れ

3年7カ月ぶり 米国産が大幅減

韓国の税関統計によると、2019年8月の鉄スクラップ輸入量は39万7420トンとなった。輸入量が40万トンを下回ったのは2016年2月以来3年7カ月ぶり。世界の鉄スクラップが値下がりするなど、世界の鉄スクラップマーケットに先安観が濃厚に漂った。さらに韓国メーカ



の在庫水準が堅調だったことなどからも、韓国の鉄スクラップ輸入量は減少。なかでも米国からの輸入量が前月比で大幅に減少した。ロシアからは7万6059トン（同1.2%増）、日本からは2万7000トン（同31.8%増）と増加した。その他は3万2324トン（同35.8%減）となった。

最大の輸入元である日本からの輸入量は、前月比では4カ月連続減少。前年同月比では7カ月連続で減少している。また、韓国は8月に日本産鉄スクラップの輸入に関して放射線検査を強化することを発表し、韓国港湾では鉄スクラップの荷揚げが一時足止めされるケースもあった。

また、韓国・現代製鉄の8月の日本産鉄スクラップ輸入入札は22日に実施した1回のみに、日本側への提示価格は前回（7月12日）比で据え置き、H2でFOBトン2万7000円だった。

大阪府下鉄スクラップヤード入荷量推移

出所：関西鉄源協議会

が2万2044トン（前年同月比27.2%減、前月比51%減）、タイは1万4032トン（前年同月比2倍、前月比2.1倍）、台湾は1万1201トン（前年同月比79.5%減、前月比35.8%減）。

その他の輸出先の実績については、前年同月比が9821トン（前年同月比35.3%減）、8348トン（前年同月比44%減、前月比44%減）、米国は、前年同月比倍（前年同月比前月比8.6%減）となった。

関東データースチール 来月7日から営業開始

大手電炉メーカー、台同製鉄と朝日工業は、両社の鉄筋棒鋼販売部門を統合し、2019年10月1日付で共同販売会社「関東データースチール株式会社」を設立し、同7日から営業を開始する。

△取締役（非常勤） 藤田倫之
 △取締役（非常勤） 石井康宏
 △監査役（非常勤） 西仲桂
 △監査役（非常勤） 原田浩行
 【組織および部門別連絡先】
 △営業1部（主な業務）竹節鉄筋・鋼片の販売代行 営業1課
 電話03-6267-0030（代表）、FAX同6267-0003
 △営業2部（主な業務）ねじ鉄筋、継手、

定着板付鉄筋の販売代行）：営業2課：電話同6267-0003
 2、FAX同6267-0003、営業3課
 電話同5218-17093、FAX同5218-17093、FAX同5218-17085
 △技術営業部（主な業務）

業務継手、定着板工法に関する技術提案、技術管理）：技術営業課、検定課、EG管理課、技術サービス課、技術開発課：電話同5218-17093、FAX同5218-17085

鉄スクラップヤード入荷 8月5%増9.5万トン

関西鉄源協議会（代表幹事：黒川友二、扶和メタル会長）がまとめた8月の大阪地区鉄スクラップヤード入荷量は、会員分総計で前年同月比4.9%増の9万4858トンだった。内訳はヤード入荷が同1.2%増の7万1196トン、メーカー直送が同17.8%増の2万3662トン（前年同月比24.8%増）だった。

2カ月連続で実績を上回った。品種別ではスクラップが同減の1万3000トン、2カ月連続で減った。例年より前年同月比減りが長かったこと、自動車関連に陰りが出始める（流通筋）が関係する。新製品と同様に、6%減の6

増の2万3662トン（前年同月比24.8%増）だった。内訳はヤード入荷が同1.2%増の7万1196トン、メーカー直送が同17.8%増の2万3662トン（前年同月比24.8%増）だった。

ピレット 輸出 46%減 6.4万トン

財務省の貿易統計によると、2019年7月のピレット（鋼片）輸出量は6万3910トン（前年同月比45.9%減、前月比8.6%減）となった。平均単価は4万7723円で、前年同月比7394円安、前月比241円安となった。

前年同月比7394円安、前月比241円安となった。